

日本基督教団 八王子教会牧師 松木 進

牧師：14年 説教塾10年 セミナー参加：11回

共同黙想

グループメンバー：郷家 一二三、伊能 悠貴、川崎 恵、館野 真、松木 進

私たちのグループでは、お互いに心にかかるところを出し合いながら、共同黙想を行った。このような点から、以下のことが主に話し合われた。

- ・神さまの愛と憐みが主題であり、主の憐みと招きが表されている。特にマタイを招きながらファリサイ派をも招きの中を含めている。
- ・罪人の招きを語りながら、教会に来ている人たち同士が垣根を作ったり、自己義認をしたりしている。その自己義認する人にも審きの言葉に留まるのではなく、招きの言葉をもどう語れるだろうか。学童保育で働いていると、子どもたち同士で仲が悪い。教会ではどうか。
- ・長い痛みを死を訴える人の導きを相談すると、加藤先生がそうだよなとまず深く共感されたことから、憐れみの心を失っていた自分を考えさせられた。
- ・自分は教会に来る前まで一人で生きていた。教会に招かれた時に、居心地がよく、ここにいていいという思いが与えられた。あなたも来ていい。イエスさまがそこにおられるからこそ生まれる平和がある。
- ・無料チケットを受け取って、あの特別な人に会いに来たということが大きな出来事であったのではないかな。
- ・病人が必要なのは医者。私が医者となって来たのは、罪人が招くため。この食卓に招かれていることが既に赦しとなっている。
- ・主イエスが食卓について招いている。そこではマタイが消えている。徴税人や罪人がどっと来た。徴税人マタイに主イエスが招かれたということは、かなり早く伝わったのではないかな。交通の要衝の路上で、天下の往来で起こっているから、多くの人が目にしたに違いない。
- ・これは私の話しだと思った時にどちらにしても招かれていた。集っている恵みの出来事を批判する心、ねたみがある。恵みの出来事を共に喜べない心が教会の中にある。
- ・マタイが呼ばれて立ち上がった。放蕩息子が向きを変えて帰ったことと似ている。
- ・行って学びなさい。神に招かれた人として、ラビがこう言っている。どこに行きなさいと言っているのか。ここには場所が記されていない。ラビの常套句で言った。主イエスは新しいラビ、新しい律法の教師。

私たちのグループでは、「徴税人、罪人」と「ファリサイ派の人」の関係を共に黙想していく中、放蕩息子の弟と兄に似た点があることを確認しました。13節「行って学びなさい」はファリサイ派の人への招きでもあるとの発言から、「審き」とどまらない「招き」の黙想が広がって行ったように思います。私自身、テキストと自分の黙想のズレを確かめる機会となりました。メンバーの発言が説教作成をしていく手がかりを頂きました。参加者だけの共同黙想でしたが、説教の幅が広がる経験をさせ

ていただきました。